

「学びの革新」指導展開例

＜基本情報＞

◇教育課程 音楽科

◇学 年 中学部 第2学年(5名)

◇単 元 名 「楽器で表現しよう(和太鼓)」

◇単元の目標 ○鑑賞及び身体・歌唱表現を通して音楽を味わい、リズムを感じて楽器表現及び即興表現をすることができる。

◇本時の目標 ・リズムや強弱を感じながら和太鼓演奏をすることができる。

・音楽に合わせて身体表現をすることができる。

◇生徒の実態 単一障害学級。生徒一人一人の音楽に関する知識・技能は様々で幅がある。いずれの生徒も力をコントロールして強弱やアクセントを意識しながら打楽器演奏に取り組んだ経験は乏しい。これまでの音楽の授業の中で、個々の能力に応じたリズム打ちによって、自発的に取り組む様子が見られてきている。生徒Bは独語が多く、活動に集中して取り組むことや言語理解に課題がある。生徒Cは質問に対し単語や擬態語で答えることが多く、試行錯誤して考えることが苦手である。共に音楽に対する興味・関心は高い。



＜学習過程(抜粋)＞

学習活動	指導上の留意点		
	B	C	全体
1 歌唱(5分) (1)はじめようコ			○はじめようコンサートを歌うこと
4 器楽(30分) (2)「まつりだわっしょい」の音楽に合わせた和太鼓演奏 ・男子G 2回 ・女子G 2回 ・全身 2回 ・一人ずつ発表	<p>ばちを持ったまま音楽に合わせて両手を上げたり下げたりする身体表現を行うことができる。</p> <p>○どのタイミングで両手を上げたり下げたりするか分かるように、文字やイラストを使って手を動かすタイミングを示す。(T1) ☆ばちを持ったまま音楽に合わせて両手を上げたり下げたりする身</p>	<p>ばちを持ったまま音楽に合わせて両手を上げたり下げたりする身体表現を行うことができる。</p> <p>○どのタイミングで両手を上げたり下げたりするか分かるように、文字やイラストを使って手を動かすタイミングを示す。(T1) ☆ばちを持ったまま音楽に合わせて両手を上げたり下げたりする身</p>	<p>○聴覚過敏がある生徒に配慮しながら活動を行う。</p>

一人での発表時、グループや全員での練習では表現していませんでしたが、腕の上げ下げに併せて、途中から左右の足もリズムに合わせて斜め横に突き出すアレンジを加えた身体表現をするようになりました。

「まつりだわっしょい」では、間奏にばちを打ち合わす部分があります。生徒Cは他生徒とは叩き方が異なり、左右交互にクロスして叩く表現を見せました。本生徒の目標とは関係ありませんでしたが、ばちの叩き方を工夫した表現でした。

生徒Bは活動に対して意欲的だが集中力が続かない。しかし、授業後半でみんなの前での発表時に指導者から指導された表現とは異なる工夫した表現を行った。生徒Cは指示どおりに行動することが多く、思考し、工夫することに課題があるが、本授業(単元を通して)では、他生徒の真似をするのではなく、自らのばちの叩き方を表現した。ちょっとしたきっかけであるが、しっかり取り上げ評価することで、主体的な学びへとつなげることができるのではないかと考える。授業者は生徒が迷ったり、指示とは異なる行動をしたりした場合、どのように動くか見守り、その上で正解や直接的な修正の方策を伝えず、「どうするのか」生徒自身に考えさせる指導を意識している。